

大阪湾ダイビングスポット創造プロジェクト



NPO法人 環境教育技術振興会 (CAN) 理事長 関藤 博史

1. 地域づくり方針・目的

「汚い海」の代名詞である大阪湾を、市民の手で水をきれいにし、多くの生き物たちが集う豊かな海に回復させ、最終的には全国から多くのダイバーが訪れるダイビングスポットの創造をめざす。

地域の小学生を対象とした環境学習の場として活用を図り、未来を担う子ども達に、自分たちにとって最も身近な海 = 大阪湾に興味と理解、愛着を持ってもらう。



アマモ移植の状況
写真提供：
大阪コミュニケーション
アート専門学校
城者 定史 氏

2. 取り組み内容

「海のゆりかご」と呼ばれる『アマモ(海草)』を移植し大阪湾の環境改善

(1) 地元小学生らを対象に環境学習会

・環境学習会

大阪湾の水質悪化や生き物の減少

・子ども達がアマモの苗を育てる

「アマモ育成キット」を配布

・ボランティアダイバーらが植え付けを行い、その様子を子ども達が見学。

(2) その他、竹炭魚礁の設置や海底清掃など適時実施



ボランティアダイバー達
20、30代の若者中心

3. 苦労点・達成度等

ボランティアダイバーらの発信で、

現在、子ども達が育てているアマモ 300株

市民や地域ボランティアが育てているアマモ 400株

4. 効果・反響等

(当初予定) 小学校1校

(現在) 小学校4校の他、高校や市民団体も参画

近年大阪湾に姿を見せなかった「スナメリ」が再び目撃されるようになり、水環境改善の成果が見られつつある。



環境学習会の模様
写真右は
「アマモ育成キット」

5. 今後の課題等

大阪湾がダイビングスポットとして、関西の元気の源となるためには、地道な取り組みを細く長く世代を越えて続けていくことが不可欠であり、この取り組みを持続していくための仕組みづくり。



↑ きれいな海にしか住まない
スナメリが再び目撃される



↑ スナメリ目撃の新聞報道
(朝日新聞H17.12.5)

地球のために
いいことしよう



CAN “できる”ことからやっています。

地球のために
いいことしよう



大阪湾ダイビングスポット化創造プロジェクト

NPO環境教育技術振興会(CAN)

関藤 博史

CAN “できる”ことからやっつけていこう。

地球のために
いいことしよう



CAN “できる”ことからやっつけていこう。

「できる。やってやれないことはない。」

人にいいこと、社会にいいこと、地球にいいこと

私たちは大切な海と共生していくために
様々な活動に取り組んでいます。

サンゴ礁復活プロジェクト



(和歌山)

大阪湾クリーン作戦



(天保山海域)



大阪湾にダイビングスポットをつくろう

「海のゆりかご」アマモの移植による
大阪湾ダイビングスポット化創造プロジェクト

H17年度 都市再生モデル調査

ボランティア・ダイバーによる →
アマモの移植作業

撮影: 城者 (OCA)

未来を担う子ども達が参画しての環境学習

地元小学生らを対象にした環境学習会
子ども達が育てたアマモを大阪湾に



↑アマモ育成キット

NPO、市民、子ども、学生、行政と力を合わせ実施

アマモ場育成をめざし、アマモ株、播種シートを設置



20代、30代の若い世代が
ボランティア・ダイバーとして参画



地球のために
いいことしよう



CAN “できる”ことからやっぺいこう。

人と人の力を合わせ人と共に活動します
自然と環境、人そして行動、
コミュニケーションとネットワーク
積極的に行動すれば“できる”ことが何かあるはず